



月刊 部品新聞

2010年12月 第49号

編集・発行 Unit

仕分けられたスポーツ

今年の夏の衆議院選挙で政権が交代してから、様々な業界で良くも悪くも変化が起ころうとしています。スポーツ界も例外ではないでしょう。

スポーツ界への影響

公共事業関連など直接的に影響が出てきている他の業界に対して、スポーツ界の場合には、今後間接的に影響が出てくるのではないかと考えられます。各競技団体の役員や、選挙の目玉として引つ張り出された元競技者まで、前与党に關係する方々は大勢いたと思います。それがひっくり返ってしまつたわけですから、影響がないはずがありません。

その最たる例が事業仕分けだつたのではないのでしょうか。2位じゃだめなのか

この言葉を誰が発言したか覚えていませんが、この発言以降スーパーコンピュータ関連だけでなく、様々なところで波紋を呼び、連日メディアを賑わせていました。

これはスポーツで考えればわかりやすいと思います。1位を目指した結果、残念ながら2位になることはあつ

ても、最初から2位を目指して行動を起こしている人はいないでしょう。それでは1位をとることは絶対にできません。

1位を目指すために税金を投資した分以上の収益が見込まれることがあつた場では、説明がされなかったために、誤解もあつたかも知れませんが、あの発言は1位を目指すことの重要性を、国民全員が再認識するきっかけになつたのではないのでしょうか。

スポーツ関連予算は

スポーツ関連の事業仕分けでは、地域のスポーツ施設の整備、総合型地域スポーツクラブ育成推進事業、国民体育大会開催事業、緑のグラウンド維持活用推進事業、ドーピング防止活動推進事業、民間スポーツ振興費等補助金などが他の多くの事業同様、予算要求の縮減という結論に至りました。

ただ予算的なところのみで大きく取り上げられましたが、評価者のコメントには「トップレベルの強化には国費を充てるのが当然」、「ドーピング関連、国体関連、強化関連は国が行うべき」、「スポーツ振興基金助成事業やToTo事業との

関係を見直した上で効率的な支出を行うべきと考える。」「今日、体育協会の有り様は要検討、組織の陳腐化。」などの意見も出ていたようです。

ただ、最終的な結果は前年度比で約2億円増が国際競技力向上の推進、地域のスポーツ環境整備の推進および学校体育の充実に配分されることになり、そのうちの約7割が国際競技力向上の推進に充てられます。前年度の予算と比較しても約2割増となつています。

仕分けの結果

正直に言うとなつて、使用道も含めてどのくらいの予算があり、ど

のように使われているのかということはある興味もなく、減ることはないだろうというぐらゐの認識でした。政権が交代し、このような形で事業仕分けが行われたということ、予算の中身を再認識することもできま

した。しかし予算が増えたからといって喜んでる場合でもありません。

主役の競技者へは

これら配分された予算だけで充分という訳ではありません。日本協に加盟している55の中央競技団体はそれぞれでスポンサーを募るなどして様々な工夫をしてゆかなければならないことには変わりはありません。

しかしこれらの予算

はどれだけ競技者のために利用されているのでしょうか。

メジャーな競技はまあだしも、マイナーな競技では全日本レベルの競技者でも競技を続けていくが故に就職もできず、アルバイトで生活をしているという話もよく聞きます。

大義名分は強化のための予算ですが、現場レベルに還元されている感覚もあまりありません。NTCの宿泊施設を倍増することよりも、もう少し効率的に予算を使って、各競技の強化を進める、あるいは競技者が競技を続ける環境を整備することの方が重要なのではないのでしょうか。

前年度との予算額の比較

単位:百万円

	21年度	22年度	比較増減額
スポーツ振興関連予算	22,529	22,740	211
競技力向上推進	13,617	16,327	2,710
地域スポーツ環境整備 および 学校体育の充実推進	8,912	6,413	△ 2,499

文部科学省ウェブサイトより

Unit代表 澤野 博(さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部品となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のフィジカルコーチ。NSCA CSCS、JADA DCOなども保有。
ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。
0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com